



as human, for human
PARAMOUNT BED
HOLDINGS

ひゅうまんず愛

343

震災後の 苦境を乗り越えて 新たな挑戦へ

高木ふき子さん

公益財団法人ときわ会
常磐病院
看護部長

一九五六年福島県生まれ。七七年福島県立医科大学附属看護学校卒、いわき市立総合常磐城共立病院勤務。九四年いわき市立常磐病院看護師長、二〇一〇年いわき市立総合常磐城共立病院副看護部長、一四年より現職。



常磐病院は、福島県東部、浜通り南に位置し、かつて炭鉱の町として栄えたいわき市にある。泌尿器科や人工透析を中心とした専門分野での先端医療の提供を目指し、一九八九年に発足した「ときわ会」の中核病院として二〇一〇年に開院したが、一年経たないうちに東日本大震災に遭遇した。

高木ふきさんが、常磐病院の看護部長に就任したのは一四年。当時、いわき市の医療が震災後の人材不足によって深刻な状況に陥っている中、同病院は院長以下一丸となり、地域医療を良くするため取り組みを進めていた。その姿勢に共感し現職を引き受けたという。

「閉鎖せざるを得ない病院や診療所も多く、当時、これも二四〇床中、稼働していたのは一八〇床のみ。私の最初の仕事は、病棟をフルオープンさせるために看護師の増員を図ることでした」

外部に向けた積極的な情報発信が功を奏し、採用状況は徐々に改善された。昨年四月には病床の全稼働も達成。新卒の募集には各地の看護学校へ自らも足を運んでいる。

「ときわ会の理念は『山一家 地域の皆様と共に生きる』です。まずは医療や看護の質を上げることが何よりの地域貢献です。今いる看護師の教育・育成と、外からのキヤリア人材の登用の二方面から向上を図っています。地域の信頼を集めて、ここで働いていることが誇

りに思える病院、看護部をつくることが目標です」

ときわ会は、昔からスタッフを家族のように大切にし、互いに協力し、支え合う文化が浸透している。常磐病院では、院内に二四時間対応の保育所や児童クラブなどを併設、子育て支援に力を注いできた。また、ワークライフバランスにも積極的に取り組み、安心して働き続けられる環境整備に励んでいる。

さらに、地域医療体制の充実を目指し、救急車受け入れ台数を約三倍に増やすプロジェクトや、血液内科など地域に不足している診療科の新設といった、さまざまな計画を実現すべく活動中だ。

高木さんは、こうした病院を挙げての数々の挑戦に、看護部を率いて参画するとともに、地域の医療連携と課題解決を図るため、他の病院に声をかけて「浜通り看護研究会」をスタートさせるなど新たな取り組みにも奔走する。

「ここは若い管理職が多いのですが、頼もしく育っています。きちんとバトンを渡せるように頑張っています」

スタッフから「お母さん」のように慕われている高木さん。料理上手で漬物や惣菜をスタッフに振る舞うこともあるという。

一番の癒やしは花づくりだ。「花がないと落ち着きません。一年中、庭に四季折々の花を絶やさなようにしています」

*次回掲載は11/30号(11/22発売)です。